

高知大学 病院 ニュース

〔編集〕
高知大学病院ニュース
編集委員会
委員長 山上 卓士
〔発行人〕
高知大学医学部附属病院
病院長 執印 太郎

就任のご挨拶

4月1日付けで医学部長を拝命しました。宜しく
お願い致します。

高知大学医学部は開学以来40年を越え、附属
病院も37年を数える期間、医学生、若手医師の教
育、先進的医療の研究、そして、目の前の患者さん
達に最高の医療を届けるべく奮闘してきました。医
学部附属病院の最も重要な使命は、この3つ、教
育と研究と診療であると考えています。昨年、2週
間ほど、米国カリフォルニア州立大サンディエゴ校
(UCSD)の運営について学びに行ってきました。



医学部長
菅沼 成文
すかぬま なるふみ

かつて、数十年前には新興の医学部であったUCSDは今や全米屈指の医学部の強い
大学に成長しています。この躍進を牽引しているUCSD ヘルス(医学部と附属病院の複
合体)は専門病院を含めて複数のメディカルセンターを持っていますが、医師を養成する
医育機関を併設する高度な病院を指してメディカルセンターと呼んでいるとのことでした。

私たちの高知大学医学部そして附属病院も数十年の歴史です。しかし、新設医大と
いう時を越えて、しっかりと地域に根ざした医療を積み重ね、何よりも教育した医学生達
が立派に成長し、地元の医療を支える医師はもとより、医学教育、医学研究に力を発揮
する医師も次々と輩出してきました。自らが育成した優秀な医師に自らが開発した先進的
な医療を提供して貰うことこそ、我が高知大学医学部附属病院の最も大きな強みである
と思います。高知大学ヘルスとも言うべき、医学部と医学部附属病院との複合体が、この
強みを最大限に活用することで、医学における教育・研究・診療が、高知を舞台に展開さ
れ、世界の医療を大きく変えられるように優秀な医師を輩出し、医学的な発見や革新的な
診療技術開発を行って参ります。皆様の温かいご支援を宜しくお願い申し上げます。



就任のご挨拶



病院長
執印 太郎
しゅういん たろう

2017年度は、附属病院スタッフの皆様には病院収入の回復のため、特に、病床稼働率の回復と手術件数の増加に多大な努力をいただきありがとうございました。お陰様で病院収入は2016年度に比べて10億円の回復があり、約175億円になりました。これは横山前病院長やその周りの方々も含めて附属病院スタッフの皆様のご理解とご協力があったからです。誠にありがとうございました。

高知大学は地域に貢献するための大学です。医科大学建学のことを考えても高知大学医学部と附属病院の目標は、優れた設備のもとに高度で先進的な医療を行い、同時に優れた医療人を育成し、それによって高知県の掲げる「健康長寿県構想」に貢献することだと考えられます。すなわち、県内の医療施設、例えば高知県立あき総合病院、高知県立幡多けんみん病院など地域の医療機関に優れた医療人を輩出することです。高度で先進的な医療を行うことができるからこそ国から特定機能病院、つまり最高の医療機関であるという特別な立場をいただいているのです。このことをスタッフの皆様は念頭に置いていただけるようお願いいたします。

しかしながら、第一病棟は建築後、約40年経過した古い建物と設備を使っております。入院される患者さんが投書などでよく「部屋の空調が効かない。建物が古い、狭い。」と指摘されるように皆様にご不便とご迷惑をおかけしています。残念ながら第一病棟の新築は、まだ文部科学省では正式には認められておりません。病院収入をさらに回復させながら、文科省との交渉を進め、第一病棟の新築、すなわち再開発を認めていただくことは、我々にとって、大きな達成すべき目標、すなわちミッションです。全国の他の国立大学の

附属病院では、すでにこのような再開発は終わって、地域への貢献と言う点では、我々よりもずっと優位な立場にあります。今

回、新病院長として選考委員会を経て学長からお選びいただいたのは再開発も含めて地域への貢献を目標として述べたためと思います。この目標の達成のため、平昌オリンピックでの女子のパシュートチームのように、我々は一丸となって行動して、高知県民のためにさらに優れた病院として運営していきたいと考えています。今後ともご協力をお願いいたします。

近年、群馬大学や、東京女子医科大学、千葉県立がんセンターなどで医療事故が起り、その結果として、大学病院の安全で安心な医療に対して疑問符がつけられています。もちろん、医療事故は医療というものの性質上、多くの複雑な要素があるため、そう簡単になくすことはできません。しかしながら大学病院としての信頼を維持していくことが最も大事なことです。そのためには、医療安全の点でも地域で最高の医療機関であるべきです。この点についても気持ちを一つにさせていただけるように宜しくをお願いいたします。

最後になりますが、私は「現場の気持ちを大事にする」ことを信条としています。一緒に考えて行動し、お互いに理解し協調しながら本学の置かれている厳しい状況を乗り切りたいと考えています。

関係者の皆様には、今後ともご理解、ご協力をいただきますよう宜しくお願いいたします。

就任のご挨拶

高知大学医学部は、前身の高知医科大学として開学以来、“敬天愛人”“真理の探究”を掲げ、地域に密着した先端医療の推進と人間性豊かな医療人の育成を理念として歴史を刻んできました。時代は変遷しても、組織における理念は極めて重要ですが、一方時代の要求に答える柔軟さも併せて持ち合わせる事も必要であります。

開学の精神を礎に、研究、教育、診療の3点を同時進行で発展させることが医療学系長の責務と認識しており、更に大学自身の生き残りをかけた挑戦を挑んでいかなければいけません。

研究: 人的・資金的資源の限られる中で、質の高い研究成果を出すために、当医学部内のスタッフ交流や、他大学・他学部や産学との連携などによる縦断的かつ横断的な有機的交流を促進する必要があります。その中で、高知大学らしい特色のある研究が展開される様に努力していきたいと考えます。

教育: 国家試験合格率の更なる向上は重要課題と思えます。よって、それを意識した教育は重要であります。さらに、そのなかで、学生が学問に対する興味・探究心を涵養



医療学系長
北岡 裕章
きたおか ひろあき

することが出来る様、教職員が愛情を持って、医学生と共に学び、成長していくことが重要です。これらの事を通し、卒業生が愛着をもてる母校作りをすすめて行きたいと思えます。

診療: 当医学部は、地域への高度医療の提供と地域医療機関への医師供給を行うことが使命とされております。常に次の展開を考えながら、大学病院らしい高度医療を展開する必要があります。一方、人口減少時代に突入した高知県において、医療の将来構造を属目しながら、構想を建てることも必要です。研修医確保は極めて重要な課題です。県内唯一の医育機関として、これまでに多くの優れた医療人を教育、輩出してきた実績を元に、研修医が何を求めているか、研修医に何をすれば良いかを考えながら、改革を進めていけば、必ずや状況は好転すると思えます。そのためにも学部時代からの継続した働きかけに注力したいと思えます。

以上を通じ、当医学部が、魅力のある大学、職場になるよう尽力する所存です。何卒宜しくお願いします。

『ダヴィンチ』手術の保険適用について

—平成30年度診療報酬改定—

平成30年度診療報酬改定に伴い、内視鏡手術用支援機器『ダヴィンチ』を用いた手術の適用が拡大され、本年4月より新たに右記の12件の手術が保険適用となりました。これまでロボット支援手術は、平成24年に前立腺悪性腫瘍手術、平成28年に腎悪性腫瘍手術の2件が保険適用となっておりましたが、今回の改定で一挙に14件が保険適用となります。

米国や欧州の多くの国では、保険適用の対象として広く普及しており、各領域の学会が、かねてより保険適用を要望していたことが今回の評価に繋がったものと思われま

本院では平成24年から『ダヴィンチ』を導入し、前立腺悪性腫瘍手術をはじめ、保険適用外の手術を含めると400件近くの実績があります。今回の診療報酬改定では、本院で行ってきた保険適用外手術のうち、**膀胱悪性腫瘍手術が4月から保険診療として実施可能となりました。その他の手術においても保険診療として実施するための準備を進めており、今後の普及拡大が期待されます。**

患者さんの早期回復、早期社会復帰に寄与する本技術が安全に普及し、標準術式として定着することを望んでおります。

No.	手術項目名
1	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術
2	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術
3	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 ●肺葉切除又は1肺葉を超えるもの
4	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術 ●頸部、胸部、腹部の操作によるもの ●胸部、腹部の操作によるもの
5	胸腔鏡下弁形成術 ●1弁のもの ●2弁のもの
6	腹腔鏡下胃切除術 ●単純切除術 ●悪性腫瘍手術
7	腹腔鏡下噴門側胃切除術 ●単純切除術 ●悪性腫瘍切除術
8	腹腔鏡下胃全摘術 ●単純全摘術 ●悪性腫瘍手術
9	腹腔鏡下直腸切除・切断術 ●切除術 ●低位前方切除術 ●切断術
10	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 ●全摘(腸管等を利用して尿路変更を行わないもの) ●全摘(回腸又は結腸導管を利用して尿路変更を行うもの) ●全摘(代用膀胱を利用して尿路変更を行うもの)
11	腹腔鏡下腔式子宮全摘術
12	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術

医局長・外来医長・病棟医長一覽

平成30年4月1日現在
◎は主任科長

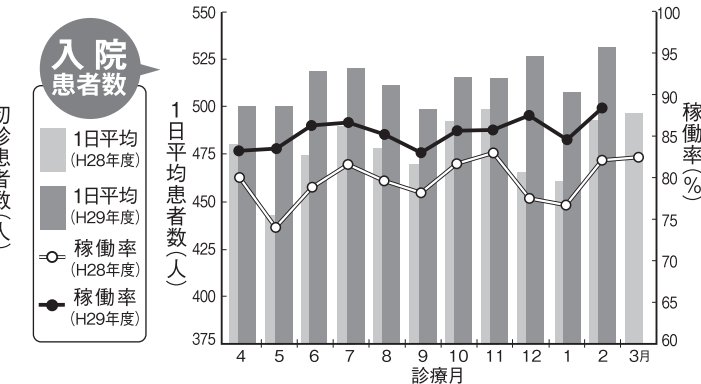
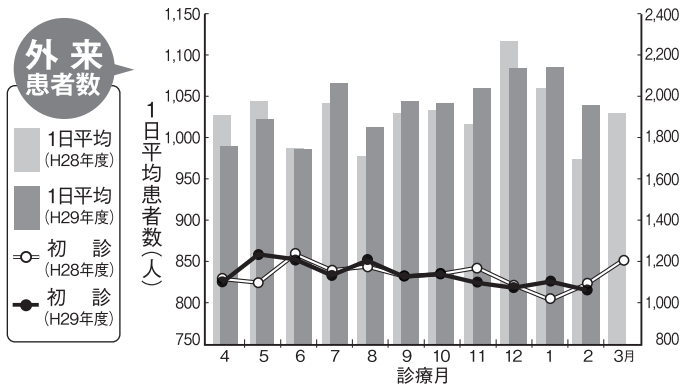
診療科	科長	副科長	医局長	外来医長	病棟医長
内科	◎西原 利治	岩崎 信二	岩崎 信二	耕崎 拓大	水田 洋
	寺田 典生	藤本 新平	堀野 太郎	島村 芳子	中山 修一
	横山 彰仁	窪田 哲也	窪田 哲也	森 正和	谷口垂裕子
	北岡 裕章	山崎 直仁	山崎 直仁	久保 亨	野口 達哉
	古谷 博和		大崎 康史	大崎 康史	森田 ゆかり
小児科	藤枝 幹也	久川 浩章	久川 浩章	山本 雅樹	石原 正行
精神科	數井 裕光		上村 直人	須賀 楓介	赤松 正規
皮膚科	佐野 栄紀	中島喜美子	大湖健太郎	木戸 一成	藤岡 愛
放射線科	山上 卓士	刈谷 真爾	刈谷 真爾	山西 伴明	山西 伴明
外科	◎花崎 和弘	杉本 健樹	北川 博之	沖 豊和	上村 直
	渡橋 和政	穴山 貴嗣	穴山 貴嗣	吉田 行貴	岡田 浩晋
形成外科	吉田 行貴	矢野 晶子	矢野 晶子	吉田 行貴	矢野 晶子
麻酔科	横山 正尚	河野 崇	矢田部智昭	河野 崇	河野 崇
産科婦人科	前田 長正	池上 信夫	都築たまみ	谷口 佳代	池上 信夫
整形外科	池内 昌彦	武政 龍一	川崎 元敬	喜安 克仁	泉 仁
眼耳鼻咽喉科・頭頸部外科	福島 敦樹	福田 憲	角 環	松下 恵理子	西内 貴史
脳神経外科	兵頭 政光		小林 泰輔	小森 正博	松本 宗一
泌尿器科	上羽 哲也	中城 登仁	福井 直樹	中城 登仁	濱田 史泰
泌尿器科	井上 啓史		蘆田 真吾	深田 聡	辛島 尚
歯科口腔外科	山本 哲也	北村 直也	笹部 衣里	北村 直也	仙頭 慎哉
総合診療部			武内 世生	小松 直樹	北村 聡子
病理診断科	村上 一郎	未定	倉林 睦	長沼 誠二	

部門名	部門長	副部門長
胃腸内科部門	西原 利治	水田 洋
肝・胆膵内科部門	岩崎 信二	小野 正文
内分泌・糖尿病内科部門	藤本 新平	西山 充
腎臓・膠原病内科部門	寺田 典生	堀野 太郎
血液内科部門	砥谷 和人	谷口垂裕子
呼吸器・感染症内科部門	横山 彰仁	窪田 哲也
老年病科部門	北岡 裕章	山崎 直仁
循環器内科部門	北岡 裕章	山崎 直仁
神経内科部門	古谷 博和	大崎 康史

部門名	部門長	副部門長
消化器外科部門	花崎 和弘	並川 努
心臓血管外科部門	渡橋 和政	弘瀬 伸行
呼吸器外科部門	穴山 貴嗣	岡田 浩晋
乳腺・内分泌外科部門	杉本 健樹	沖 豊和
小児外科部門	大島 雅之	坂本 浩一
臨床腫瘍・内視鏡外科部門	小林 道也	岡本 健

平成30年度 病院ニュース編集委員会 委員名簿	委員長	山上 卓士 (放射線科 科長)	副委員長	前田 長正 (産科婦人科 科長)
	[任期:平成30年4月1日~平成31年3月31日]	委員	窪田 哲也 (三内科 准教授) 渡橋 和政 (外科(二) 科長) 門田 亜紀 (薬剤部 専門員)	

診療状況



編集後記

桜が満開に咲き、山々は緑濃く、初夏へと変化をしています。今号では、菅沼成文医学部長、執印太郎病院長、北岡裕章医療学系長が就任され、新たなリーダーのもとで病院はスタートを切りました。今年度の医局長・外来医長・病棟医長一覽の掲載も行いました。

診療報酬の改訂が行われ、戦々恐々の状況ですが、激動の社会に適応し、特定機能病院としての役割や地域医療を支える役割を果たさなければなりません。桜のように寒い冬を耐え、春芽吹く力をため、

一気に開花するように、職員が一丸となって協働、連携を図り、目標に向かって進んでいければと思います。

皆様、「病院ニュース」読んでいただいているのでしょうか？ 提供されている医療や病院での出来事を、職員の皆様にも分かっていたら、誌面になるように編集会議を行ってきました。今後も様々なニュースが発信できるよう、皆様からの御意見や寄稿をお待ちしています。

(文責：看護管理室 坂本 美和)